

河合塾・大竹先生による

先生方のための徹底入試対策講座

第77回 《すごいなあ》と思った2つのこと

『課題研究メソッド～よりよい探究活動のために～』という本の「見本」を拝見しました。啓林館から出版予定と聞いています。SGHやSSHでの教材を意識しているのでしょうか、とにかくこれまでには見られなかった教材です。

拝見したのが「見本」ですから、内容的にはまだ精査される前のものでしょうし、内容の細部についてははさておき、私が

《すごいなあ》と思ったのはその企画

です。

それは、課題の設定、研究の手法から調査、まとめに至るまでの流れが概観できるという、初学者を対象とし、高校生でも読めるようなものを目指しているようです。さらに、文献の調べ方から、人に会うときの注意、調査・データ収集まで幅広く書かれたハウツー本でもあり、差別用語やプライバシーの保護などにも言及しています。

これまで、大学生を対象にした同じような趣旨のものはいくつか出版されていますが、高校生対象のものは、これまで知りません。時代に即した企画だと思いました。

この完成本ができれば、ぜひ拝見したいと待ち遠しく思っています。

.....

先日、若手の高校の先生から相談を受けました。彼は、かつての私の教え子です。彼の相談は、要約すれば、次の3点です。

- 1 数学の勉強を自分でやろうとすると、難しくて読めない。
- 2 入試問題が解けない。
- 3 生徒を惹きつける余談ができない。

いずれも、即答できるようなものではないのですが、私が

《すごいなあ》と思ったのはその意欲

です。自らを高めたいというその意欲には真摯さを感じました。

いえ、彼に限らず、最近の高校の先生方は、皆さん、意欲的ですよね！

今日は、1について若干の考察をしてみたいと思います。

高校生を教えたり入試問題を考察したりするために、高校数学だけでなくその中にある数学そのものを勉強しようというのは、素敵なことですね。それで数学の本を開いてみてうまく読み進められない、学生のころより読みづらくなってきた、ということはよくあるようです。

解決策は、実は、私もよくわかりません。でも、それは、

- 数学の本は、片手間では読めないくらい難しい。
- 忙しくてゆっくりと時間をかけることができない。
- 学生の頃は、何人か勝手に集まって1冊の本を読むことができたが、そんな機会もない。

という状況がありそうです。

仕事をしながらですから、今年はこの1冊ぐらいをと、

ゆっくりと、じっくりと、ゆったりと

構えるのがいいのですね。学生とは違うので、1冊の本を最初からというわけではなく、必要あるいは興味があるところを部分的につまみ食いも悪くないと思います。

2、3については、またの機会に考察することになります。



学校法人河合塾 開発研究職 数学科講師 大竹真一